

「食の安全ダイヤル」に寄せられた質問等について(12月分)

(1) 問い合わせ件数

平成16年12月1日～平成16年12月31日

44件

(2) 内訳

食品安全委員会関係	16件
食品健康影響評価関係	13件
食品安全基本法関係	0件
リスク管理一般関係 (うち食品表示に関するもの)	15件 (2件)
その他	0件

*うちBSE関係 14件

(3) 問い合わせの多い質問等

【食品安全委員会関係】

Q. 食品安全委員会によって行われた食品健康影響評価について件数など取り組み状況を教えてください。

A. 食品安全委員会においては、平成15年7月以降、リスク管理機関である厚生労働省、農林水産省及び環境省から、平成16年12月末現在で362品目に係る食品健康影響評価の要請を受け、特定保健用食品30品目、添加物25品目、動物用医薬品23品目、農薬22品目、肥料・飼料等7品目、遺伝子組換え食品等6品目など、123品目について評価を終了し、その結果を通知したところです。

現在も、「我が国におけるBSE対策」や「魚介類等に含まれるメチル水銀」をはじめとする様々な案件について、それぞれの専門調査会で審議を進めているところです。

なお、食品健康影響評価(リスク評価)の結果については、食品安全委員会ホームページ(<http://www.fsc.go.jp/hyouka/index.html>)をご覧ください。

Q . 食品安全委員会発足以降、各地で行われている意見交換会等の開催状況について教えてください。

A . 食品安全委員会では、平成 15 年 7 月の発足以来、厚生労働省や農林水産省、地方自治体等と連携して、消費者や食品関連事業者等の関係者との意見交換会を全国各地で 100 回以上開催いたしました。

これらの意見交換会では、新たな食品安全行政の仕組みやリスク分析手法等についての理解を促進するとともに、「日本における牛海綿状脳症（BSE）対策」、「遺伝子組換え食品」、「薬剤耐性菌」といった食品安全委員会で評価が行われている案件について意見陳述人を公募するなどして、広く消費者等の関係者と意見を交換し、各専門調査会での議論の参考としてきました。また、BSE や鳥インフルエンザなど国民の関心が高い問題については、海外から招聘した有識者による講演会を開催するなど正しい知識の普及にも努めています。

また、意見交換会の結果については、食品安全委員会のホームページ（http://www.fsc.go.jp/koukan/dantai_jisseki.html）に配布資料、議事録等を掲載しております。

今後、開催される予定の意見交換会についてもホームページなどによりご案内しておりますので、是非、ご参加ください。

【食品健康影響評価関係】

Q . 科学的知見に基づいた評価について分かりやすく教えて下さい。また「定性的評価」、「定量的評価」についても教えてください。

A . 食品安全委員会では、科学的知見に基づいて中立・公正な立場で食品健康影響評価（リスク評価）を行っております。

具体的には、食品の摂取を通じ危害要因が人の健康にどのような影響をどの程度及ぼすかについて、国内外の研究の成果や動物試験の結果などの様々な科学的知見を基に、専門的知見を有する研究者等により構成される専門調査会、委員会で審議を行った上で、リスク評価の結果を出しています。

また、人の健康に影響を及ぼす危害要因についてリスクを評価するにあたって、定性的リスク評価とは、危害要因が食品の摂取を通じてどのような影響（有害性）を及ぼすかを評価することです。

さらに、定量的リスク評価とは、定性的リスク評価に量的概念を導入するもので、どのぐらいの量を摂取するとどの位の確率でどの程度の健康への影響があるかを評価することです。

【BSE関係】

Q . 「中間とりまとめ」に日本人の9割はプリオンたんぱく質遺伝子がM/M型であると記載されていましたが、そのこととvCJDの感染リスクの関連性について教えてください。

A . 英国のvCJD患者の殆どが、プリオンたんぱく質遺伝子のコドン129がメチオニンの同型遺伝子型（メチオニン/メチオニン；M/M）を有していたことから、M/M型の人とは他の型の人に比べ、vCJDの潜伏期間がより短く、かつ感受性がより強いのか、またはそのどちらかであるとの報告があります。一方、我が国では、全人口に占めるM/M型の割合は、英国よりも高いとされ、91.6%であるとの報告もあります。なお、英国を含むヨーロッパの白人の約40%がMM型の遺伝子を持っているとの報告もあります。

なお、こうした事実関係を踏まえ、「中間とりまとめ」でのvCJD患者の発生数の推定に当たっては、この遺伝子要因も考慮に入れて計算しています。

しかしながら、人にBSEプリオンたんぱく質が感染して中枢神経にひろがっていくメカニズムについては、現時点で詳細な知見は得られておらず、現時点において、vCJDに関する遺伝子的要因と感染リスクの関連性について明確に説明することは出来ません。

Q . 「中間とりまとめ」にある「交差汚染」についてわかりやすく教えてください。

A . 飼料工場、販売店、そして農家等において、BSEプリオンたんぱく質に汚染されていない飼料に汚染された飼料が意図せずに僅かでも混入してしまうことです。